

会社訪問

地域との結びつきを大切に

“お客様に喜ばれる” 会社をめざして

昭和32年に村田清尚さんが、結婚を機に肥料販売店の『村田商店』を引き継ぐことになり、同年、農家との交流をさらに深めようと農機具販売修理業を開始したことが村田組のはじまりです。

昭和50年には、(株)ジャパンファームのチキン食肉加工業務を請け負う加工部を開設、平成3年には、土木部門を新設し現在に至ります。

昭和50年代、ジャパンファームの構内作業を請け負う中で当時から問題視されていたのが、病原性ウィ

ルスの防疫対策でした。

同社は、機械修理業の技術を活かし、消毒装置を開発し防疫対策に取り組んできました。

また、昭和63年には、鶏を入れるケースを積み下ろしする機械を開発し特許を取得、その技術力が認められ科学技術庁賞を受賞されています。

昨年「これまでの経験を町のために活かそう」と町内の10企業が集い結成された大崎ものづくりネットワーク振興会に参加しました。設立に向け、準備を進める矢先のこと、宮崎県で

口蹄疫が発生し、家畜、車両などが移動制限される事態となりました。

村田会長は、同振興会員の日本ハードウェア(株)にノズルの開発を相談し、従来の装置の改良版となる自動消毒装置を開発しました。

新たな特徴として、センサーライトの機能を利用し、車が近づくとセンサーが反応。動力噴霧機のモーターが作動し、上下左右に設置したノズルから消毒液が噴射されます。

完成した自動消毒機は、飼料運搬トラックなどの通行量の多い、志布志港や県

境に設置された消毒ポイントに採用されました。

自動化により、人員を半減でき、最終的に県内へのウイルス進入防止に貢献したことから、一躍注目を浴びました。

会長は、「地域との結びつきを第一に考えています。これからもお客様に喜ばれる会社を目指したい」と話されました。

また、新たな取り組みを尋ねたところ、昔から切り傷やヤケドに効果があると地域に親しまれてきた冷泉水脈を有明町原田小付近に発見されたそうです。

「大隅地域は、よい水に必要な地形、地層に恵まれています。水は生活に欠かせない命の源。地域の皆さんの健康につながれば」と新たに環境分野に注目し、社会に貢献したいと話されました。



会社概要

事業内容

- 機械開発製造
- ボーリング業、さく井工事業
- (株)ジャパンファーム協力会社

設立 昭和48年9月

代表者 会長 村田清尚
代表取締役 村田義久

従業員数 60名



▲(有)村田組 村田清尚会長



▲口蹄疫終息後、日ごろから消毒を徹底しようと畜産農家を対象に、自動消毒機展示、検討会が行われました。



▲車が近づくとセンサーが反応し、消毒液が噴射します。



▲井戸掘削機械
会長いわく大崎は『よい水』の宝庫だそうです。